

老上中学校  
学校だより  
H28(2016).4.19

# 考動する老中

校訓  
「自主・創造」  
文責 辻本 長一

## 老上中学校第38回入学式を挙りました

4月11日(月)、167名の新入生を迎え、本校の入学式を挙りました。新入生の皆さんの凛とした姿に、これからの中学校生活への大きな希望と強い決意が感じられました。

新入生を代表して、辻彩音衣さんが、小学校で学んだ団結力、あきらめない心、仲間の大切さを胸に中学校でもがんばりたい、と入学にあたって決意の言葉を述べました。また、在校生を代表して生徒会長の山下爽さんが、歓迎の言葉を述べました。「部活動で楽しく活動したり、生徒会活動で学校をよくしたり盛り上げたりしましょう。また、あいさつなんてあたり前のことですが、あたり前のことをどうあたり前にするかが大切。毎日元気よくあいさつをして、充実した3年間にしてください。」などと話しました。



校長の式辞では、新入生の皆さんはもちろんのこと、生徒の皆さん全員に大切にしてほしいこととして、何点か話をしましたので、その一部を紹介します。



……皆さんは今日から、老上中学校の生徒となります。心の中には、これから始まる中学校生活への期待がある一方、不安もあるかもしれませんが、心配はいりません。老上中学校には、温かく支えてくれる先輩や先生がいますし、今周りにいる同級生もかけがえのない存在となるのではないのでしょうか。**わからないことや困ったことがあれば、一人で悩まず誰かと相談してください。**

さて、本校では昭和54年の開校以来、自主・創造を学校の校訓として、自ら考え、正しく判断して行動できる生徒の育成に力を入れています。別の言い方をすると、本校の合い言葉の一つ「『考動する』生徒になろう」ということになります。「自分でよく考え、何かをしようと動くこと」、それが考動です。誰かから言われてするのではなく、一人ひとりが自分自身で考えて何かをやろうとすれば、新しいことを創り出すことにもつながります。老上中学校でのこれからの三年間、このことを忘れずに中学校生活を送ってほしいと思っています。

その上で、皆さんに中学生としての出発にあたり、私から二つのこととお話し、今日からの



学級開きの様子

中学校生活に役立てほしいと思います。

一つ目は、**自分自身で目標を掲げ、地道に取り組んでほしい**ということです。世界的に有名なプロゴルファーのタイガー・ウッズ選手はこのように言っています。「目標はいつも自分の中から生まれてくるべきなんだ」と。人は誰しもがそれぞれに違った良さをもっています。自分をよく見つめ、自分の良さを最大限に発揮できるよう、中学校時代で成し遂げたい目標や、将来に向けて達成したいと思う目標を考えて、これから取り組んでください。いや、それほど壮大な目標でなくても、例えば、「毎日、本を30分読もう」といったことから始めるのも一つの方法です。自分自身で目標を決めてがんばろうとすることに大きな値打ちがありますし、その目標に向かって地道に努力すれば人は必ず成長します。また、その努力は必ず皆さんの人生を豊かなものにしていくと確信しています。

二つ目は、**自分自身はもちろん、周りの仲間も大切に生活して**いってほしいということです。今日、新しい学級、新しい学年、そして新しい老上中学校としてスタートしました。周りの人たちに目を向けると、一人としてまったく同じ顔をした人はいませんし、好みや性格、得意なこと、考え方も違います。人の悪口を言わない、人の良いところを見つけてほめる、困った人がいたら勇気をもって声をかける、そうした積み重ねがあれば、自然と自分の心も豊かになり、すばらしい集団になります。また、そのように異なる一人ひとりの存在があるからこそ、会話をしたり、一緒に作業をしたりすることを通して、互いに磨かれ、向上していくのだと思います。……



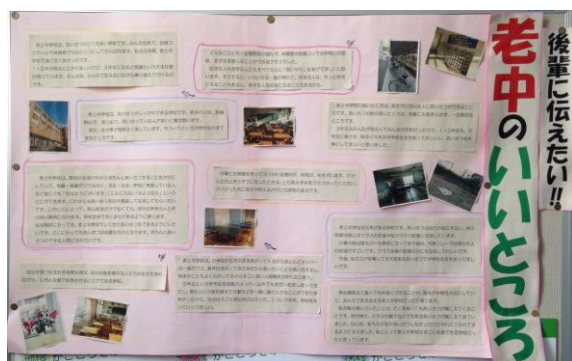
吹奏楽部の演奏で入退場



1年生職員紹介

## 良き伝統を引き継ぎ、さらなる発展を！

昨年度の卒業生が「後輩に伝えたい！！老中のいいところ」をまとめた掲示が1階から2階にあがる階段のところにあります。「元気がある学校。あいさつは当たり前にするし、休み時間にはクラスの友だちや他のクラスの友だちと交流している。」「女子男子関係なく誰とでも仲良くできるところ。誰もが仲間を大切にしている、支え合える学校。」「合唱コンや体育祭で心をひとつにしてがんばる。応援もすごい。応援は力になるしうれしい。」などのコメントがありました。学校は生徒一人ひとりが主役です。良き伝統を引き継ぐとともに、みんなの知恵を結集して、より良い老上中を創っていきましょう。



後輩に伝えたい！！  
老中のいいところ

熊本地震により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。地震のため、多くの尊い命が失われ、今なお救出活動が続けられています。また、多くの方が大切な家をなくされ、避難生活をされています。私たちにできることは何か、一人ひとりがよく考えましょう。